

**岡本忍先生のお墓参り**  
**(ヒマラヤ・ツクチェへの旅)**

(2011年12月23日～2012年1月5日)

岡本忍先生のお墓参りに、二週間の行程で岡本葉子夫人、長田高校19回生のMさんご夫妻、そして私たち夫婦の5人がネパール・ムスタン県ダウラギリゾーン・ツクチェ村へ行ってまいりましたので、ご報告申し上げます。

**12月23日(金) [カトマンズ]**

関空午前11時発のキャセイ航空。台北・香港・ダッカを経由して14時間半後カトマンズへ。たどり着いた深夜のホテル、フロントでひと悶着。

二ヶ月前には取ってあったネパール国内便(出発直前にもメールで再確認していた)のポカラ行きの出発時刻がどうしたわけか翌日4時間も遅い午後便に差し替えられていました。ポカラで「ACAP」というアンナプルナ入域許可証を取得しないと、ツクチェの村に行けません。その許可証の申請時刻に間にあわないのです。『準備怠らず』を肝に命じていたのに。これがネパールの一面で、毎回泣かされます。怒髪天を突くほどでないにしろ、Mさんの気迫満々の抗議にホテル側も明朝の努力を約束。疲労困憊で眠りました。



**12月24日(土) [ポカラ]**

結局、二転・三転・四転の後に航空会社を変えてポカラへの国内便に滑り込み。朝8時

45分離陸しました。この便に乗り込むまでの二年分のストーリーを語れば、30分番組ができそうです。

『なんや～！世界中からチケットの予約が入るから混み合うとか言うて、当日でもええんかい！！』と、播州女は心でわめいたのでした。

しかし、後で考えますと、チケット代が高い外国人を優先させて、代金安いネパールの人が誰か涙を飲んだのではないのでしょうか？浅はかな私でした。

岡本先生に叱られそうです。

マチャプチャレとアンナプルナの美しい山々を見ながら、30分で住宅地をかすめてポカラに着陸。

岡本先生のネパールの息子のような『ラジュン・シェルパ』さんが、空港で待っていてくれました。

葉子夫人はラジュンさんとしっかり抱き合って感謝の言葉を伝えました。





アグニエアーのチェックインカウンター

無事に「ACAP」と、「TIMS」というムスタン奥地方向に行けるトレッキング許可証も取得できました。

午後には、昨年12月に神戸「悠苑」で教え子の皆さんにより、執り行われた『岡本先生一周忌の「忍ぶ会」』からお預かりしてきた『3万円』を両替。レートは1,027で、3万810ルピーになりました。2年前の2倍近いルピーを手にしてしんみり。円高、喜んでええんやろか？

札束は大変な量で、輪ゴムでくくった束が3つです。物価は、日本と単純に比較して10分の一ほどでしょうか。このお金届けるためにも私たちはここ（ネパール）に来たのでした。

### 12月25日（日）[ジヨムソン・ツクチェ]

いよいよこの旅一番のフライトです。ポカラからジヨムソン空港へは、全く『風まかせ』。風が吹けば飛びません。4年前は「3日待ち」でした。二年前は4時間遅れで飛びました。

今年も飛ぶのか、飛ばんのか、待てば海路の日和あり♪と、無欲に構えていたら・・・飛びました！！

ササッと飛行機に走り寄り、左側の席を確保。圧巻のダウラギリとヒマラヤの山々。雪煙を巻き上げる神々しい迫力に息を呑む美しさです。ニルギリが迫る懐かしいジヨムソン空港に滑るように着陸。

二年前は死ぬかと思うような着陸でしたが、葉子夫人のために忍先生が助けて下さったのでしよう。

ここは、中国国境に一番近い空港ですから警官の警護が多いです。でもものんびり。出口でのACAPのチェックはありませんでした。『なんじゃ、こりゃ～！！』

空港前からジープをチャーターしてツクチェに向かいました。カリガンダキ川に沿って下り、途中「マルファ」の村に寄りました。この村は、かつてのタカリー族の栄華を偲ばせる美しい村です。ご存知の方も多いと思いますが、20世紀初頭に禁断の国チベットへ初めて潜入した外国人として、世界的に有名な日本人・川口慧海の記念館があります。彼は、雪解けを待つ間ここでチベット語経典を読解したそうです。





しばし時を止めたかのような趣ある村を散策していよいよツクチェに。

高度2600mのツクチェの村から、前方にニルギリ三山と右後方にダウラギリIが見えます。7000m峰と8000m峰の谷間のこの村は、世界有数の大渓谷にあります。

美しいこの村に辿り着き、シェルパ家のみなさんの温かい大歓迎を受けて「やっと来たなあ。」と感慨ひとしおでした。

M夫妻も葉子夫人も笑顔が弾けます。

遠路のお客のためにラジュンさんの奥さん（ルパナさん）が用意してくれた「おもてなし」を受けた後、何はさておきこの旅の本番『岡本先生のお墓参り』に出発しました。

### 「お墓参り」

Mさんの後をゆっくりゆっくり歩き、体に負担のないよう確実に上へ上へと登り、シェルパ家の墓所にやっと辿り着きました。

りんご畑から見上げると真っ白なそのお墓は、わたし達が来るのを微笑みながら待っていてくれたように見えました。

葉子夫人は涙声で、「ラジュンさん、ほんまにありがとう。」と心に沁みるお礼を述べて、お墓に走り寄り「お父さん、来ましたよ・・・。」と両手でお墓を撫ぜました。

私たちは、ラジュンさんが用意してくれたお花を一人ずつ献花し、手を合わせました。それぞれの思いを優しく聞いてもらっているような気がしました。



岡本先生のお墓

葉子夫人が、忍先生の遺影と夫婦二人で写した写真をお墓に入れて、「これでお父さん一人ぼっちじゃないなあ。」お線香も供えました。涙のひと時でした。

私はここで、秘密のお供えものを取り出しました。夫もニコニコ。「岡本先生の好物、エビマヨ持って来たかってんけどそれは無理やから、悠苑のピーナッツ持って来ましたよ。」絶対ウケルぞ〜！と、期待していたのに、みんなの反応はいまひとつ。悠苑でこっそりポケットに忍ばせたのに。まあええか。先生、ご馳走食べてる気になって下さいね。



いつもみんなの思い、ここにありますよ。

### 三年の法事

ラジュンさんが、みんなのために家から手伝いの少年を伴い、自家製の「ロキシー」やミルクティーを持参してくれていました。「センセイ、ノンデクダサイネー！」と言いながら岡本先生のお墓にかけてくれます。

皆でロキシーで乾杯。「神戸で法事しとらへんから、ここで三年の法事ができるなあ！。ここまで来れてほんまに良かった。ラジュンさん、わたし幸せや〜！！」葉子夫人は叫ぶように言われた。今年80歳になられたので、その思いが深く伝わってきました。もうネパールには来れないだろうと・・・。（この日のために麻耶山に毎日登り、足を慣らしてお

### 岡本先生のお墓からニルギリを見る

られました。）涙のお墓参りは法事の酒盛りになりました。

岡本先生を偲んで、めいめいに思い出ばなしを一杯し、沢山笑いました。

泣き笑いの法事後ラジュンさんは、「皆さんの幸せと健康をいつでもここから祈っています。」と、一人一人にタルチョー（仏教の旗）を渡してくれ、岡本先生のお墓の周りに張り巡らせてくれました。ここからいつも祈ってもらえていると思うと、とても幸せでありがたい事だと思いました。

夜、『一周忌』で教え子のみなさんからお預かりしてきた「3万円」を、ラジュンさんのお父さん「スッパさん」に手渡しました。

「たくさんの教え子のみなさんから『よくぞ、お墓をつくって下さいました！！』と、お礼に預かって来ました。」ラジュンさんに通訳してもらおうと、「ありがとうございます。どうかみなさんによろしく。」と頭を下げて返礼されました。みなさんの岡本先生を慕われるお気持ちは、ちゃんと伝わったと思います。

その夜、ツクチェは満天の星空でした。外は深々と冷え、シェルパ家は温かな人の気持ちで満たされていました。



12月26日(月)

[ナウリコット]

岡本先生が亡くなるまで見守り続けたヒマラヤの少女「ニルガマリ」さんに会いに行きました。

コバンという村からゆ

つくり一時間ほど登り、ダウラギリと大氷河が正面に見えるナウリコットに着きました。



枯れ枝集めにでも出ている、もしも会えなかったら・・・と心配でしたが、ラジュンさんが前日にナウリコットの知り合いに携帯で連絡して、ニルガマリさんに家に居てくれと伝達してもらっています。彼女の家には電気も水道もありません。

わたし達の到着まで一仕事していた彼女は、子どもに呼び戻され汗まみれで息をきらして山道を走って帰って来てくれました。葉子夫人と抱き合うように手話を交えて精一杯の会話をする二人。亡くなってもなお岡本先生の思いがこの人に伝わり、何ともいえない尊いものが伝わってくる光景でした。

土間が一つきりの彼女の家は、綺麗に掃き清められていました。服も精一杯のオシャレをしてくれています。わたし達の来訪を待っての心遣いとわかります。この土間に家族みんなが寝るのですが、8畳ほどの広さです。子どもは6人。聾者の彼女が一生懸命に声を出して、思いを伝えようとしてくれました。初めて彼女の声を聞きました。心と心がしっかり交わりました。



心洗われる再会を果たし、この旅の幸せを噛み締めながら下山しました。ツクチェピーク

(6920m)も快晴の空に美しい姿を見せてくれました。

#### 12月27日(火) [ティティ村]

80歳にして生まれて初めてバイクに乗り、葉子夫人はティティの村に上がりました。「そんなん、よう乗らんわ。歩きます。」と消極姿勢だったのが、説得されラジュンさんの後ろに乗って見たら、「きゃ〜っ！楽しい〜！！」と、豹変。ブイブイ上がって行きました。ティティはニルギリNとダウラギリIの頂上が同時に見られる素晴らしい展望地です。

#### 12月28日(水) [チマン村]

古き良き風情を残した村を訪ね、歩き通した葉子夫人に感服。



## 12月29日(木) [ツクチェからムクティナートへ]

四泊五日のツクチェ滞在中、心づくしのお料理と精一杯のもてなしをして下さったルパナさんに皆からお礼を言い、再会を祈ってお別れしました。首には旅人の無事を祈るスカーフを巻いてもらいました。

来る度に絆が深まって、家族同然の心持ちになります。今回はもう泣きませんでした。笑顔のお別れです。

今日はこれからジョムソン経由でムクティナートまで登って行きます。ジョムソンの入り口には看板があり、字の読めない人々にもわかるように『戦争

は何の解決にもならない。』とありました。私たちも本当にそう思います。

途中に厳重なチェックポストがあり、ここで「ACAP」と「TIMS」の確認を受けました。「せやろ！せやろ！これがあるねんなあ！！」と、妙に私は喜びました。

### ムクティナート

高度約3800mのこの地は、ヒンドゥー教のヒマラヤ三大聖地の一つであり、チベット仏教の聖地でもあります。古くはネパール固有のボン教の聖地だったそうです。

ツクチェを流れるカリガンダキ川の上流にあり、カリガンダキはインドに流れ、ガンジス川に合流します。



5400mのトロンパス峠を見ながら、草木も生えていない荒涼とした大地をひた走り、ジープの終点からは女性だけバイクタクシーに乗り換えて上へ上へと進みました。お寺には108の蛇口から聖水がほとぼしる「水の壁」がありました。

みなそれぞれ亡き人を偲び、合掌し参拝しました。

日の沈むまで、夕暮れのムクティナートをまたひた走り、ジョムソンに着いたのは真っ暗な午後6時でした。密度の濃



い、二度とない一週間でした。

### 12月30日（金）【ジョムソンからポカラ】

ジョムソン空港から飛び立って間もなく、夫が飛行機の中からツクチェの村の上ですくくと立つ白い墓を見ました。

ラジュンさんに言うと、「ハイ、そうです。オカモト先生のお墓、空から見えます。」と。先生が見送りして下さっているようだった。一瞬の出来事だった。



### 12月31日（土）～旅の終わりまで

年越しはポカラのレイクサイドでし、「マムズ・ガーデン・リゾート」で過ごしました。このホテルに五人全員「心の星5つ」つけました。

ポカラからカトマンズ・香港を経由して5人全員が笑顔で1月5日（木）帰国し、様々な新しい体験と、変わらぬ人の温かさにふれてわたし達の旅が終わりました。

### 旅を終えて

「私の人生、私のネパール」と、岡本先生が書かれた言葉に導かれるようにツクチェまで旅した5人。

岡本先生を敬愛するツクチェの人たちがお墓までつくって下さっていたのは、まっすぐに一筋に生き抜かれた岡本先生の人生の賜物であるように思えます。

雄大なヒマラヤの自然に抱かれて先生は眠り、ナウリコットの上やある時は青谷町の風になり自由自在に行ったり来たり。時にはバッハを聴きにシカゴのギタリストさんの所へ行かれていますのかもしれない。

そして今日も、あのりんご畑の上のニルギリを仰ぐ天空のお墓には「タルチョー」がヒマラヤの強い風にはためき、教え子のみなさまのために祈りの風を送って下さっていることと思います。

今回も大変長い旅報告となってしまいました。ごめんなさい。読みにくい文章をお読みいただき、本当にありがとうございました。